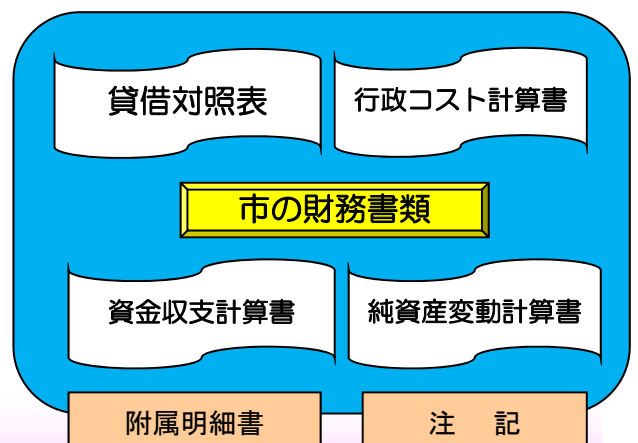


令和2年度決算 中津川市の財務書類 (統一的な基準)

中津川市の財政状況についてわかりやすく説明し、行政経営、行財政改革に役立てるため、市の決算を民間企業の決算の方式で表現した「貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書」(総称して「財務4表」)を公表します。

また、国民健康保険事業会計、病院事業会計などの事業会計や、第三セクターまでを1つにまとめた連結財務4表も同時に公表します。

当市では、平成20年度決算から「総務省方式改訂モデル」によって財務書類を作成してきましたが、平成27年度決算から、総務大臣からの要請に基づき「統一的な基準」により財務書類を作成することとしました。



令和4年3月

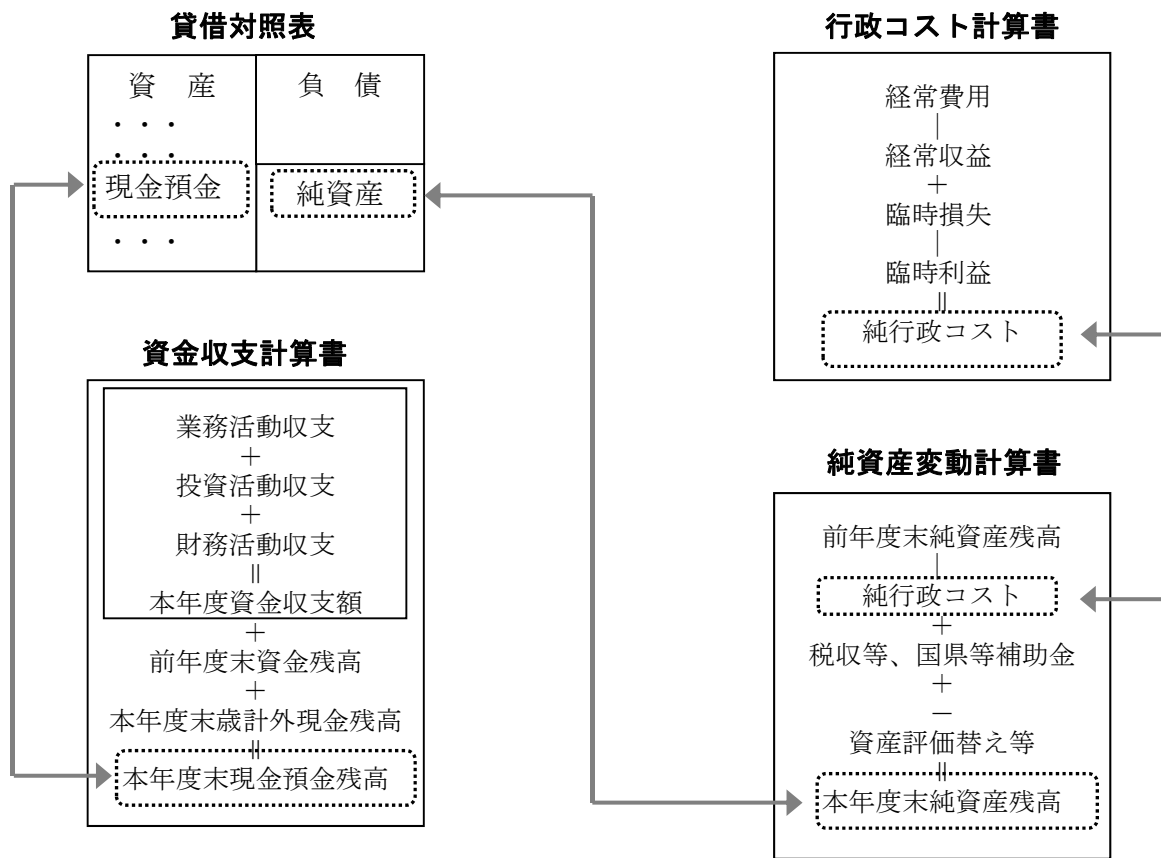
岐阜県中津川市

も く じ

I	財務4表の体系	3
II	中津川市の財務4表（要約版）	4
	住民1人当たりの財務書類（要約版）	5
III	財務4表からわかること	6
	1. 貸借対照表からわかること	6
	2. 行政コスト計算書からわかること	7
	3. 純資産変動計算書からわかること	8
	4. 資金収支計算書からわかること	9
IV	財務4表の読み方	10
	市の会計(現金主義)と民間企業の会計(発生主義)との違い	15
V	令和2年度決算中津川市の財務書類	17
	連結財務書類と対象会計について	18
	一般会計等	19
	全体会計	27
	連結会計	33

I 財務4表の体系

財務書類は4つの表から構成されており、4表の関係について説明します。



- 貸借対照表の「純資産」の変動を表したものが純資産変動計算書になるため、貸借対照表の「純資産」と、純資産変動計算書の「本年度末純資産残高」とは一致します。
- 貸借対照表の「現金預金」の変動を表したものが資金収支計算書になるため、貸借対照表の「現金預金」と、資金収支計算書の「本年度末現金預金残高」とは一致します。
- 行政コスト計算書の「純行政コスト」は、経常的な行政サービスを提供するために必要な費用総額から、受益者から徴収する“手数料や使用料”などの収入を差し引いた額です。市税等の一般財源で賄うものであることから、1年間の資産変動を表す純資産変動計算書の「本年度末純資産残高」を計算するうえで前年度末純資産残高から差引く額となり、純資産変動計算書の「純行政コスト」と一致します。

Ⅱ 中津川市の財務4表（要約版）

一般会計等ベース 《対象会計：一般会計》

貸借対照表（令和3年3月31日現在）

（単位：円）

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	253,773,053,587	固定負債	36,591,360,161
有形固定資産	237,500,324,083	流動負債	4,217,031,987
無形固定資産	82,243,065		
投資その他の資産	16,190,486,439		
流動資産	9,836,641,014		
現金預金	2,823,245,949		
未収金	287,379,075		
短期貸付金	-		
基金	6,727,240,599		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 1,224,609		
		負債合計	40,808,392,148
		【純資産の部】	
		固定資産等形成分	260,500,294,186
		余剰分（不足分）	△ 37,698,991,733
		純資産合計	222,801,302,453
資産合計	263,609,694,601	負債及び純資産合計	263,609,694,601

資金収支計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

（単位：円）

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	38,539,961,693
業務収入	42,639,809,272
臨時支出	285,331,436
臨時収入	0
業務活動収支	3,814,516,143
【投資活動収支】	
投資活動支出	7,602,557,327
投資活動収入	4,222,882,640
投資活動収支	△ 3,379,674,687
【財務活動収支】	
財務活動支出	3,654,763,280
財務活動収入	3,469,950,000
財務活動収支	△ 184,813,280
本年度資金収支額	250,028,176
前年度末資金残高	2,537,581,155
本年度末資金残高	2,787,609,331

前年度末歳計外現金残高	37,989,425
本年度歳計外現金増減額	△ 2,352,807
本年度末歳計外現金残高	35,636,618
本年度末現金預金残高	2,823,245,949

行政コスト計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

（単位：円）

科目名	金額
経常費用	49,654,747,996
業務費用	27,713,762,037
人件費	7,769,632,687
物件費等	19,508,206,331
その他の業務費用	435,923,019
移転費用	21,940,985,959
補助金等	14,317,856,937
社会保障給付	4,531,135,469
他会計への繰出金	3,038,047,318
その他	53,946,235
経常収益	1,478,067,798
使用料及び手数料	628,446,751
その他	849,621,047
純経常行政コスト	48,176,680,198
臨時損失	336,437,481
臨時利益	134,649,843
純行政コスト	48,378,467,836

純資産変動計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

（単位：円）

科目名	金額
前年度末純資産残高	228,738,558,946
純行政コスト（△）	△ 48,378,467,836
財源	42,458,862,633
税収等	25,946,361,248
国県等補助金	16,512,501,385
本年度差額	△ 5,919,605,203
資産評価差額	△ 5,654,921
無償所管換等	△ 11,996,369
その他	-
本年度純資産変動額	△ 5,937,256,493
本年度末純資産残高	222,801,302,453

※表中の科目については、関連科目を集約しています。

住民1人当たりの財務書類（要約版）

一般会計等ベース ‹対象会計：一般会計›

※記載金額は円未満を四捨五入で表示しているため、合計と一致しない場合があります。

住民1人当たりの貸借対照表（令和3年3月31日現在）

【R3. 3. 31現在人口 76,905人】

（単位：円）

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	3,299,825	固定負債	475,799
有形固定資産	3,088,230	流動負債	54,834
無形固定資産	1,069		
投資その他の資産	210,526		
流動資産	127,906		
現金預金	36,711		
未収金	3,737		
短期貸付金	-		
基金	87,476		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 16		
		負債合計	530,633
		【純資産の部】	
		固定資産等形成分	3,387,300
		余剰分（不足分）	△ 490,202
		純資産合計	2,897,098
資産合計	3,427,731	負債及び純資産合計	3,427,731

住民1人当たりの資金収支計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

（単位：円）

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	501,137
業務収入	554,448
臨時支出	3,710
臨時収入	0
業務活動収支	49,600
【投資活動収支】	
投資活動支出	98,856
投資活動収入	54,910
投資活動収支	△ 43,946
【財務活動収支】	
財務活動支出	47,523
財務活動収入	45,120
財務活動収支	△ 2,403
本年度資金収支額	3,251
前年度末資金残高	32,996
本年度末資金残高	36,247

前年度末歳計外現金残高	494
本年度歳計外現金増減額	△ 31
本年度末歳計外現金残高	463
本年度末現金預金残高	36,711

住民1人当たりの行政コスト計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

（単位：円）

科目名	金額
経常費用	645,663
業務費用	360,364
人件費	101,029
物件費等	253,666
その他の業務費用	5,668
移転費用	285,300
補助金等	186,176
社会保障給付	58,919
他会計への繰出金	39,504
その他	701
経常収益	19,219
使用料及び手数料	8,172
その他	11,048
純経常行政コスト	626,444
臨時損失	4,375
臨時利益	1,751
純行政コスト	629,068

住民1人当たりの純資産変動計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

（単位：円）

科目名	金額
前年度末純資産残高	2,974,300
純行政コスト（△）	△ 629,068
財源	552,095
税金等	337,382
国県等補助金	214,713
本年度差額	△ 76,973
資産評価差額	△ 74
無償所管換等	△ 156
その他	-
本年度純資産変動額	△ 77,202
本年度末純資産残高	2,897,098

※表中の科目については、関連科目を集約しています。

Ⅲ 財務4表からわかること

1. 貸借対照表からわかること

(1) 総括 (住民1人当たりの資料 (R3.3.31 現在人口 76,905人))

令和2年度末時点で資産合計は2,636億円、負債合計は408億円、純資産合計は2,228億円となっています。

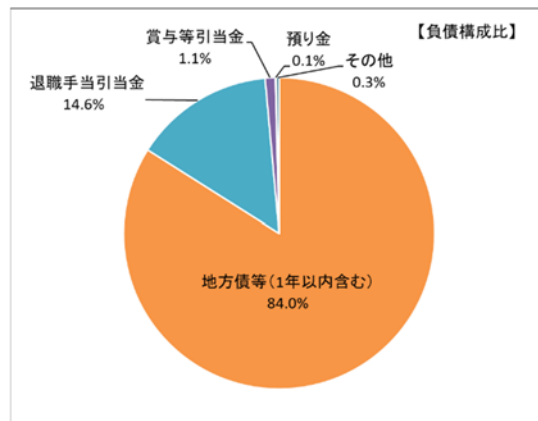
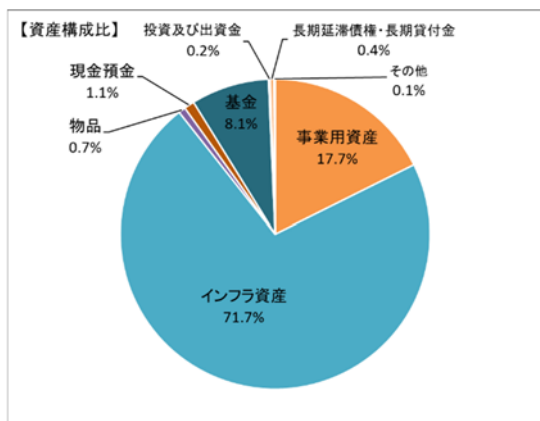
そのうち負債である408億円については、将来の世代が負担するものになり、純資産である2,228億円については、過去の世代や国・県の負担で既に支払いが済んでいるものになります。

また、これらを住民1人当たり換算すると、資産が342万8千円、負債が53万1千円、純資産が289万7千円になります。

① 資産保有状況等

資産合計2,636億円の構成については、道路などの固定資産(土地、工作物等)であるインフラ資産が1,891億円(構成比71.7%)、市庁舎や学校などの固定資産(土地、建物等)である事業用資産が465億円(同17.7%)となっています。**資産合計のうち約9割が土地、建物、工作物といった固定資産**であることがわかります。

一方負債の中では、地方債(市債)が1年内償還予定地方債等(翌年度償還分)を合わせると総負債の84.0%(臨時財政対策債を含む)を占めており、大きな割合となっています。



② 有形固定資産減価償却率

※ 有形固定資産減価償却率 = 減価償却累計額 ÷ 有形固定資産(土地を除く取得価格) × 100

有形固定資産のうち建物などの償却資産について、耐用年数に対して資産の取得からの程度経過しているのかを全体として把握することができます。この比率が高いほど施設の減価償却(資産の老朽化)が進んでいるといえます。

(※一般会計等 単位:百万円)

項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
減価償却累計額	A	282,399	292,782	303,194	313,908
有形固定資産(土地を除く取得価格)	B	520,478	521,351	525,213	527,731
有形固定資産減価償却率	A/B	54.3%	56.2%	57.7%	59.5%

(2) 社会資本形成の世代間公平性

①純資産比率

※ 純資産比率＝純資産合計÷資産合計×100

地方公共団体は、資産を税金など現世代の負担と、借金による将来世代の負担で整備しています。純資産比率は、税金による現世代の負担を表しており、現在市が所有する資産のうち、現世代がどれだけ負担し整備を行っているかを示すものです。この数値が高いほど将来世代への負担の先送りが少ないといえます。

(※一般会計等 単位：百万円)

項 目		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
純資産合計	A	240,974	234,619	228,739	222,801
資産合計	B	281,777	274,170	269,669	263,610
純資産比率	A/B	85.5%	85.6%	84.8%	84.5%

②実質純資産比率

※ 実質純資産比率＝(純資産合計－インフラ資産)÷(資産合計－インフラ資産)×100

資産額の中には、道路など売却できないインフラ資産が含まれています。売却できないためインフラ資産を価値の無いものと仮定した場合、現金化できる資産だけで純資産比率を表した指標になります。

(※一般会計等 単位：百万円)

項 目		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
純資産合計－インフラ資産	A	32,100	32,527	33,334	33,747
資産合計－インフラ資産	B	72,903	72,079	74,264	74,555
実質純資産比率	A/B	44.0%	45.1%	44.9%	45.3%

③将来世代負担比率

※ 将来世代負担比率＝地方債残高(1年内償還予定地方債を含む)÷有形固定資産×100

純資産比率の逆で、整備した資産の額にどれだけの借金が残っているかの割合により、社会資本等の形成に係る将来世代の負担の比重を表しています。ここでは社会資本等を有形固定資産(事業用資産、インフラ資産、物品)としてこれに対する地方債残高(1年内償還予定地方債を含む)の割合を算出しています。

(※一般会計等 単位：百万円)

項 目		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
地方債残高(1年内含む)	A	33,834	33,137	34,405	34,269
有形固定資産	B	258,063	250,178	244,642	237,500
将来世代負担率	A/B	13.1%	13.2%	14.1%	14.4%

2. 行政コスト計算書からわかること

(1) 総括 (住民1人当たりの資料 (R3.3.31 現在人口 76,905人))

令和2年度の経常費用は497億円で、行政サービス利用に対する対価として、住民の皆さんが負担する使用料や手数料などの経常収益は15億円でした。経常費用から経常収益を引き、そこに臨時損失を加え、臨時収益を引いた純行政コストは484億円で、この部分については市税や地方交付税などの一般財源や国、県補助金などで賄っています。

また、純行政コストを住民1人当たりに換算すると、62万9千円になります。

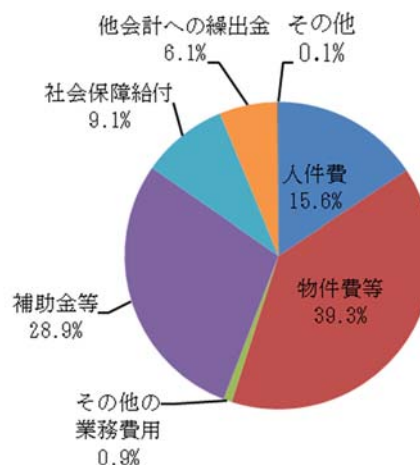
行政コストが例年と比べ高くなっている主な要因は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症に対する施策として、国民一人当たり10万円を給付する「特別定額給付金事業」があったことが挙げられます。

(※一般会計等)

項 目		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
純行政コスト(円)	A	39,047,872,101	38,160,047,688	38,376,018,763	48,378,467,836
住民基本台帳人口(人)	B	79,093	78,486	77,865	76,905
一人当たり行政コスト	A/B	49万4千円	48万6千円	49万3千円	62万9千円

(2) 行政コストの性質別分類

行政コスト【支出】	性質別	単位：百万円
業務費用		
人件費		7,770
物件費等		19,508
その他の業務費用		436
移転費用		
補助金等		14,318
社会保障給付		4,531
他会計への繰出金		3,038
その他		54
経常費用合計		49,655



行政コストの内訳を性質別にみると、経常費用の中で割合が大きかったのは、業務費用の中では、委託料や施設等の維持補修に係る経費、減価償却費などの物件費等（39.3%）で、次に職員給与や議員報酬、退職給付費用などの人件費（15.6%）となっています。

移転費用は、補助金等（28.9%）が例年よりも大きな割合となりました。（令和元年度は10.4%）これは、新型コロナウイルス感染症対策として特別定額給付金事業があったことなどが要因となっています。

(3) 財政構造の自律性

※ 受益者負担比率＝経常収益÷経常費用×100

経常的な行政サービス提供コストである経常費用と行政サービス提供の対価である経常収益を対比することにより、行政コストのうち受益者が負担している割合を表しています。平均的な値は2%～8%とされています。

令和2年度の受益者負担比率が下がった要因としては、新型コロナウイルス感染症対策関連費用（特別定額給付金事業など）が経常費用に含まれること、また新型コロナウイルス感染症の影響により、公共施設等の利用者が減少したことで、施設使用料などの経常収益が減ったことなどが考えられます。

（※一般会計等 単位：百万円）

項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
経常収益	A	1,846	1,874	1,840	1,478
経常費用	B	40,917	39,776	40,436	49,655
受益者負担比率	A/B	4.5%	4.7%	4.6%	3.0%

3. 純資産変動計算書からわかること

(1) 財政構造の柔軟性

※ 行政コスト対税収等比率＝純経常行政コスト÷財源×100

令和2年度の財源（税収等、国県等補助金）のうち、どのくらいの金額が「資産形成以外の行政コスト」に費消されたのかを把握することができます。この比率が100%に近づくほど資産を形成する余裕が少なくなり、100%を超えると過去から蓄積した資産が行政コストに充てるために取り崩されたことを表します。

（※一般会計等 単位：百万円）

項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
純経常行政コスト	A	39,071	37,902	38,596	48,177
財源	B	32,312	31,779	32,641	42,459
行政コスト対税収等比率	A/B	120.9%	119.3%	118.2%	113.5%

4. 資金収支計算書からわかること

(1) 財政の健全性

令和2年度の業務活動収支は38億円のプラス、投資活動収支は34億円のマイナス、財務活動収支は2億円のマイナスで本年度資金収支総額は2億5千万円のプラスとなっています。結果として本年度末現金預金残高は28億円となっています。(貸借対照表の現金預金と一致します。)

また、業務活動収支(支払利息支出を除く)と投資活動収支(基金積立金支出及び基金取崩収入を除く)を合算した「基礎的財政収支(プライマリーバランス)」は14億円の黒字となりました。

(※一般会計等 単位:百万円)

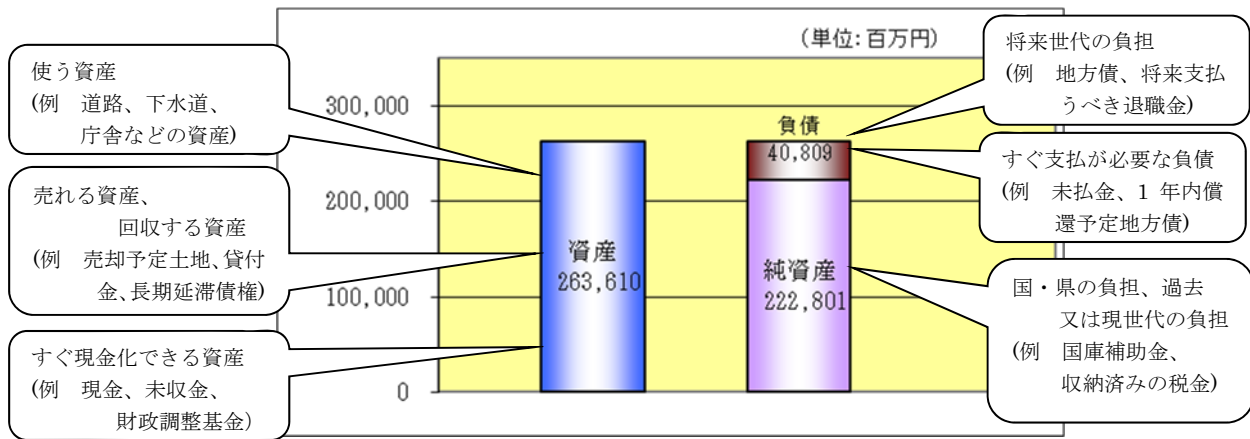
項 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
業務活動収支	A	3,166	3,376	3,761	3,815
(上記のうち支払利息支出)	B	265	218	180	152
投資活動収支	C	△1,787	△2,293	△4,343	△3,380
(上記のうち基金積立金支出)	D	2,828	2,960	2,954	3,273
(上記のうち基金取崩収入)	E	2,697	2,913	2,462	2,498
基礎的財政収支	A+B+C+D-E	1,775	1,348	90	1,362

IV 財務4表の読み方

貸借対照表とは

貸借対照表とは、市が住民サービスを提供するために所有している資産（財産）と、その資産を将来世代が負担する借金等の額（負債）と、過去と現在の世代が負担済みの市税や補助金などの額（純資産）を総括的に対照表示した一覧表のことです。

また、資産合計額と負債・純資産合計額が一致し、左右がバランスしている表であることから「バランスシート」とも呼ばれます。



(1) 資産の内訳

資産は、「①固定資産」、「②流動資産」に分類され、土地、建物、道路など将来の世代に引継ぐ社会資本や、資金や基金などの将来現金化することが可能な資産です。

①固定資産

固定資産は、「有形固定資産」、「無形固定資産」及び「投資その他の資産」に分類して表示します。

「有形固定資産」

- ・事業用資産 …… 公共サービスに供されている資産でインフラ資産以外の資産（庁舎、学校など）
- ・インフラ資産 …… 社会基盤となる資産（道路、橋、公園など）
- ・物品 …… 車両や美術品など

「無形固定資産」 …… 住民基本台帳システムなどのソフトウェアやリース物品など

「投資その他の資産」

- ・投資及び出資金 …… 公営企業や第三セクターなどへの出資金など
- ・長期貸付金 …… 自治法第240条第1項に規定する債権である貸付金
- ・長期延滞債権 …… 滞納繰越調定収入未済の収益及び財源
- ・基金 …… 流動資産に区分される以外の基金（減債基金、その他の基金）
- ・その他 …… 上記以外及び徴収不能引当金以外のもの
- ・徴収不能引当金 …… 貸付金などの金銭債権に対する将来の取立不能見込額（不納欠損額）を見積もったもの（長期延滞債権分）

②流動資産

- ・現金預金 …………… 手元現金や普通預金など
- ・未収金 …………… 税金や使用料などの未収金
- ・短期貸付金 …………… 貸付金のうち翌年度に償還期限が到来するもの
- ・基金 …………… 財政調整基金、翌年度に取崩し予定の減債基金
- ・棚卸資産 …………… 売却目的で保有している資産
- ・その他 …………… 上記以外及び徴収不能引当金以外のもの
- ・徴収不能引当金 …… 未収金の金銭債権に対する将来の取立不能見込額（不納欠損額）を見積もったもの

（2）負債の内訳

負債は、「①固定負債」と「②流動負債」に分類され、市債や退職手当引当金など将来の世代の負担となるものです。

①固定負債（年度末の翌日から1年以降に支払いや返済が行われる予定のもの）

- ・地方債 …………… 借金残高のうち翌々年度以降に償還されるもの
（地方債の翌年度償還分は、流動負債に計上）
- ・退職手当引当金 …… 全職員が当該年度末時点で退職した場合に必要な退職手当額を算出し、翌年度に支払う予定額を差引いた額

②流動負債（1年以内に支払いや返済をしなければならないもの）

- ・1年内償還予定地方債 …… 借金残高のうち翌年度償還予定額
- ・賞与等引当金 …………… 翌年度に支給される賞与のうち、当年度に発生した額
- ・預り金 …………… 基準日時点において、第三者から寄託された資産に係る見返負債

（3）純資産の内訳

純資産は、「①固定資産等形成分」、「②余剰分（不足分）」に分類され、過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてよい財産です。

①固定資産等形成分

- ・資産形成のために過去の世代や国・県が負担した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態（固定資産等）で保有されます。言い換えれば、資源を調達して資産形成を行った場合、その資産の残高（減価償却累計額の控除後）を意味しています。

②余剰分（不足分）

- ・余剰分（不足分）は、地方公共団体の費消可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有されています。不足の場合は不足分として計上します。

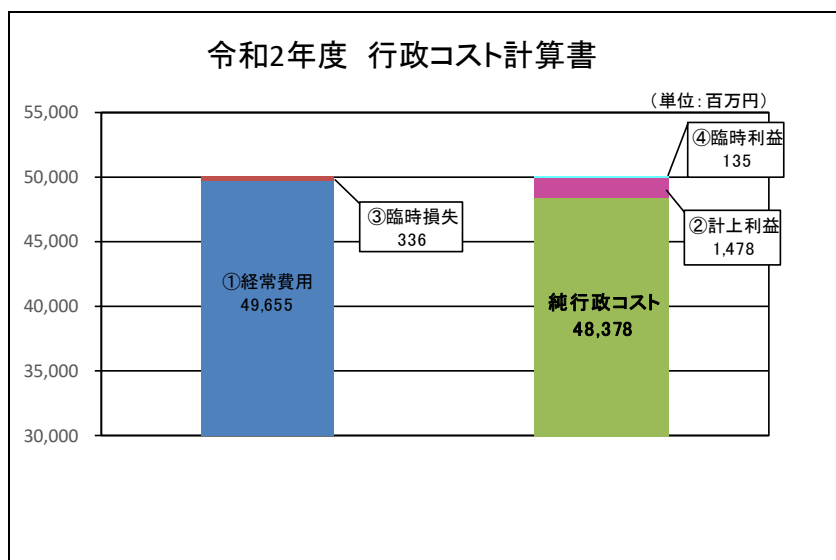
行政コスト計算書とは

行政コスト計算書は、会計期間中の費用、収益の取引高を明らかにするものです。福祉サービスやごみの収集に係る経費など、資産形成につながらない人件費や物件費などの行政サービスに要するコスト（①経常費用、③臨時損失）に区分したものと、行政サービスの対価として得られた使用料、手数料など（②経常収益、④臨時利益）を対応させて表示したものです。

経常費用と臨時損失の合計から経常収益と臨時利益の合計を差し引くことで算出される純行政コストは受益者負担以外の市税や地方交付税、国庫支出金・県支出金などで賄わなければならないコストということになります。

報告書(財務諸表)
 自治体名：中津川市 年度：令和2年度
 会計：一般会計等
 行政コスト計算書(PL) **性質別行政コスト**

科目名	金額
経常費用	49,654,747,996
業務費用	27,713,762,037
人件費	7,769,632,687
職員給与費	4,909,510,201
賞与等引当金繰入額	434,118,719
退職手当引当金繰入額	676,034,740
その他	1,749,969,027
物件費等	19,508,206,331
物件費	7,305,046,121
維持補修費	1,118,053,631
減価償却費	11,085,106,579
その他	-
その他の業務費用	435,923,019
支払利息	151,626,963
徴収不能引当金繰入額	12,485,840
その他	271,810,216
移転費用	21,940,985,959
補助金等	14,317,856,937
社会保障給付	4,531,135,469
会計への繰出金	3,038,047,318
その他	53,944,235
経常収益	1,478,067,798
使用料及び手数料	628,446,751
その他	849,621,047
純経常行政コスト	48,176,680,198
臨時損失	336,437,481
災害復旧事業費	285,331,436
資産除売却損	50,956,045
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	150,000
臨時利益	134,649,843
資産売却益	134,649,843
その他	-
純行政コスト	48,378,467,836



①経常費用

- ・人件費や物件費など資産形成に結びつかない1年間の行政サービスを提供するために必要となった費用です。減価償却費や賞与引当金など現金支出を伴わない費用についても計上します。科目について性質別に計上しています。

②経常収益

- ・主に行政サービス提供の過程で得られる施設利用料などの受益者負担です。

③臨時損失

- ・災害復旧事業費や資産売却に係る損失など臨時に発生した費用です。

④臨時利益

- ・資産売却に係る利益など臨時に発生した収益です。

純資産変動計算書とは

純資産変動計算書は、純資産（過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてよい財産）が年度中にどのように増減したかを表したものです。

行政コスト計算書から算出された、当年度の純行政コストが当年度の財源（税金等、国県等補助金）によって賄われているかどうかを見ることができます。

純資産の減少は将来世代にその分の負担が先送りされたことを意味します。逆に純資産の増加は、現役世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資産を蓄積したことを意味し、将来世代の負担は軽減されたこととなります。

報告書(財務諸表)

自治体名：中津川市

年度：令和2年度

会計：一般会計等

純資産変動計算書(NW)

(単位：円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	228,738,558,946	266,939,696,310	-38,201,137,364
純行政コスト(△)	-48,378,467,836		-48,378,467,836
財源 ①	42,458,862,633		42,458,862,633
税金等	25,946,361,248		25,946,361,248
国県等補助金	16,512,501,385		16,512,501,385
本年度差額	-5,919,605,203		-5,919,605,203
固定資産等の変動(内部変動)		-6,421,750,834	6,421,750,834
有形固定資産等の増加 ②	4,042,008,616	4,042,008,616	-4,042,008,616
有形固定資産等の減少	-11,166,450,741	-11,166,450,741	11,166,450,741
貸付金・基金等の増加	3,789,324,833	3,789,324,833	-3,789,324,833
貸付金・基金等の減少	-3,086,633,542	-3,086,633,542	3,086,633,542
資産評価差額 ③	-5,654,921	-5,654,921	
無償所管換等 ④	-11,996,369	-11,996,369	
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	-5,937,256,493	-6,439,402,124	502,145,631
本年度末純資産残高	222,801,302,453	260,500,294,186	-37,698,991,733

①純行政コストと財源

- ・行政コスト計算書から算出された純行政コストに対して、財源がどのような収入（市税、地方交付税、国庫支出金など）で賄われているかを表します。

②固定資産等の変動(内部変動)

- ・財源を将来世代も利用可能な固定資産、貸付金や基金などにどの程度使ったかを表します

【有形固定資産等の増加、減少】

当該年度に土地、建物、道路などの社会資本を取得した額と過去に取得した社会資本の経年劣化等に伴う減少額（減価償却費など）を表します。

【貸付金・基金等の増加、減少】

当該年度の貸付金、基金、出資金などの増減を表します。

③資産評価差額

- ・当該年度に発生した固定資産や金融資産の評価益や評価損を表します。

④無償所管換等

- ・無償で譲渡又は取得した固定資産の評価額などを表します。

資金収支計算書とは

資金収支計算書は、単年度の現金の出入りを「①業務活動収支」、「②投資活動収支」及び「③財務活動収支」に区分して、どのような活動に資金が必要であったかを表している表です。

①業務活動収支	
業務支出 38,540	業務収入 42,640
臨時支出 285	
収支余剰 3,815	

②投資活動収支	
投資活動 支出 7,603	投資活動 収入 4,223
	収支不足 ▲3,380

③財務活動収支	
財務活動 支出 3,655	財務活動 収入 3,470
	収支不足 ▲185

①業務活動収支

- ・人件費や物件費などの支出と税金や手数料などの収入を計上し、日常の行政活動による資金収支の状況を表しています。通常プラスになることが望ましく、マイナスの場合は、財政的に良好ではないことがわかります。プラスの場合は、業務活動収支のプラスの範囲内で投資活動収支を賄い、さらには財務活動収支も賄うのが一般的です。

②投資活動収支

- ・土地、建物、道路などの社会資本や基金、貸付金などに関する収入と支出を表しています。資産形成等が行われればマイナスになることが多く、プラスの場合は、当年度に基金の取崩が行われたことや資産形成等がほとんどなかったことを示します。

③財務活動収支

- ・地方債等の借入や償還に関する支出を表しています。地方債の償還が進んでいる場合にはマイナスとなりますが、プラスの場合は、地方債等が増加していることを示します。

市の会計（現金主義）と民間企業の会計（発生主義）との違い

中津川市は、水道事業会計、下水道事業会計、病院事業会計を除き、「現金主義」を取っています。

現金主義とは、一事業年度における現金の収入、支出を伴う取引のみを把握し、これに基づき決算書類を作成するものです。

これに対し、民間企業の会計は、「発生主義」を取っています。発生主義とは、現金収支を伴わなくても、一事業年度において資産や負債、利益や損失が発生する全ての取引を把握し、これに基づき決算書類を作成するものです。

また、平成 27 年 1 月に通知された「統一的な基準による地方公会計の整備促進について（総務大臣通知）」において、平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間ですべての地方公共団体において「統一的な基準」による財務書類等を作成することを要請されました。このことから、中津川市では作成方法を「総務省改訂モデル」から変更し、平成 27 年度決算から「統一的な基準」による財務書類を作成しました。

◆現金主義と発生主義の違い

(1)減価償却費の計上

建物などを購入すると使用や時の経過によって毎年購入時よりもその価値が減少していきます。この減少額を建物などの使用し得る年数（耐用年数）を推定し、その年数に割り当て、費用として計上します。

(2)退職給与引当金の計上

職員が退職するとその年度に退職金が支払われますが、退職金は職員の勤務期間に応じて支払われるもので、その勤務期間に割り振り毎年費用として計上します。

(3)未収金の計上

市税等の収入について、その年度中に収納されなかった分を、次年度に収入される資産として計上します。

(4)回収不能見込額の計上

上記の未収金などのうち、過去の経験値からどれくらいが回収不能になるのか予測を立て、その分を費用として計上します。

◆「総務省改訂モデル」と「統一的な基準」の違い

(1)決算データ引用元

「総務省改訂モデル」では、決算データは「地方財政状況調査」で総務省に報告した数値を用いていましたが、「統一的な基準」では、一つ一つの伝票ごとに複式簿記の仕訳を行い、財務書類を作成します。

(2)減価償却費の計上方法の変更

「総務省改訂モデル」では、「地方財政状況調査」で計上した普通建設事業費の積み上げを固定資産として簡易的に減価償却費を算出していました。「統一的な基準」では、平成 27 年度に固定資産台帳を整備し、これを元に耐用年数を定め、減価償却費を算出しています。

この結果、「統一的な基準」では固定資産が「総務省改訂モデル」と比較して多く計上される結果となりました。

(3)固定資産台帳を整備することによるストック情報の管理

固定資産台帳を整備したことにより、市が保有する資産をより正確に把握できるようになったため、固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを把握する「**有形固定資産減価償却率（資産老朽化比率）**」を算出することができるようになりました。

この指標を活用することで、公共施設等の更新時期などの見込みが立ち、施設の更新や統廃合などの検討に役立てられるようになりました。

(4)他団体との比較可能性の確保

総務省からの要請により、中津川市を含むすべての自治体が「統一的な基準」での財務書類の作成に取り組んでいるため、他団体との比較を同じ水準で行うことができます。

令和2年度決算

中津川市の財務書類

連結財務書類と対象会計について 18

◆一般会計等

- 貸借対照表 19
- 行政コスト計算書 20
- 純資産変動計算書 21
- 資金収支計算書 22

◆全体会計

- 全体会計の貸借対照表 27
- 全体会計の行政コスト計算書 28
- 全体会計の純資産変動計算書 29
- 全体会計の資金収支計算書 30

◆連結会計

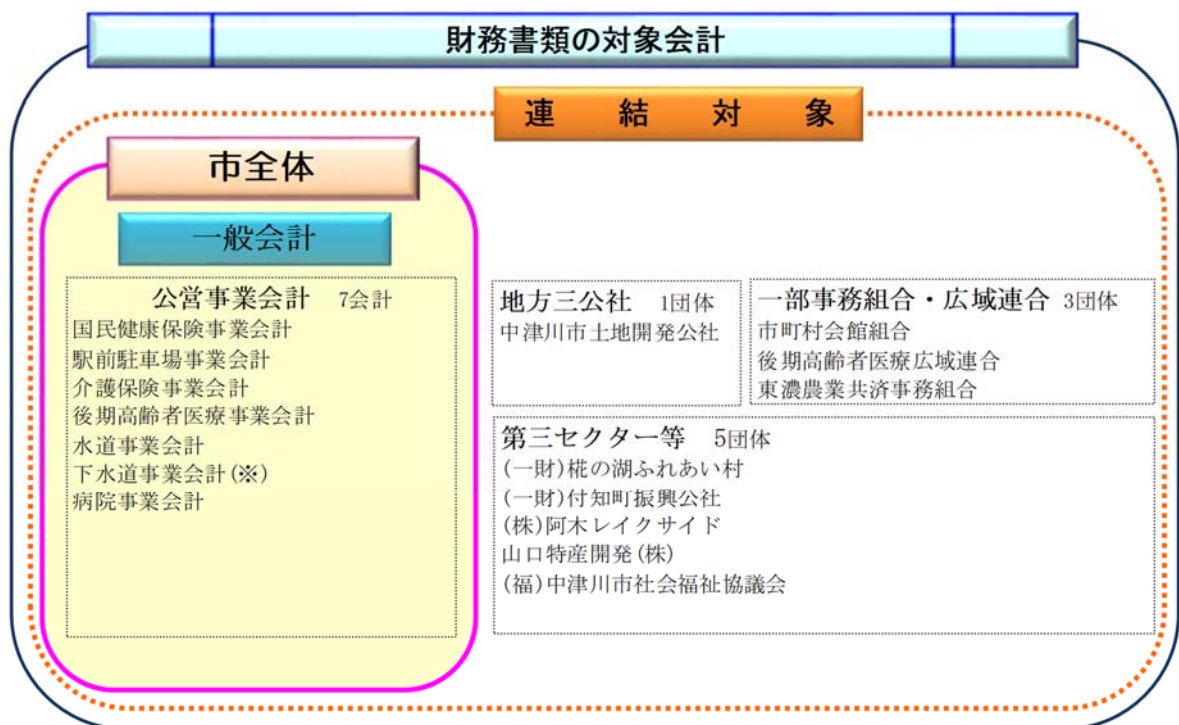
- 連結貸借対照表 33
- 連結行政コスト計算書 34
- 連結純資産変動計算書 35
- 連結資金収支計算書 36

連結財務書類と対象会計について

連結財務書類とは、一般会計のほか、自治体を構成するその他の特別会計や、自治体と連携して行政サービスを実施している関係団体や法人を、一つの行政サービス実施主体とみなして作成する財務書類です。

連結財務書類は、一般会計と公営事業会計を連結させた「**全体会計**」と、全体会計に地方公共団体が出資する第三セクターや一部事務組合・広域連合等を連結させた「**連結会計**」の二種類の財務書類を作成します。

連結財務書類では「連結グループ」として一つの行政サービス実施主体が、“外部と行った”取引により発生した額を計上することとなるため、連結対象となる会計・団体・法人との間で行われた取引は、原則としてすべて相殺消去します。



※下水道事業会計、農業集落排水事業会計、特定環境保全公共下水道事業会計及び個別排水処理事業会計については、地方公営企業法の適用に向けた集中取組期間として、令和元年度決算までは連結対象から除外していました。令和2年度より、地方公営企業法を適用し 4 つの会計を統合した企業会計「下水道事業会計」となったことから、連結対象としています。

水道事業会計は、平成 29 年度決算から中津川市が事業運営を行っていた全ての簡易水道事業の資産、負債等をすべて引き継いで財務書類を作成してあります。

貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

自治体名：中津川市

会計：一般会計等

(単位：円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	253,773,053,587	固定負債	36,591,360,161
有形固定資産	237,500,324,083	地方債	30,566,590,213
事業用資産	46,511,117,290	長期未払金	-
土地	15,224,171,969	退職手当引当金	5,949,865,000
立木竹	17,140	損失補償等引当金	-
建物	85,447,814,132	その他	74,904,948
建物減価償却累計額	-56,834,159,059	流動負債	4,217,031,987
工作物	8,854,631,698	1年内償還予定地方債	3,702,328,610
工作物減価償却累計額	-6,444,428,593	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	434,118,719
航空機	-	預り金	35,636,618
航空機減価償却累計額	-	その他	44,948,040
その他	51,211,860	負債合計	40,808,392,148
その他減価償却累計額	-51,211,857	【純資産の部】	
建設仮勘定	263,070,000	固定資産等形成分	260,500,294,186
インフラ資産	189,054,588,505	余剰分(不足分)	-37,698,991,733
土地	5,168,713,193		
建物	323,537,806		
建物減価償却累計額	-251,312,078		
工作物	433,053,591,810		
工作物減価償却累計額	-250,326,516,773		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	1,086,574,547		
物品	6,531,900,495		
物品減価償却累計額	-4,597,282,207		
無形固定資産	82,243,065		
ソフトウェア	72,499,065		
その他	9,744,000		
投資その他の資産	16,190,486,439		
投資及び出資金	495,256,487		
有価証券	-		
出資金	495,256,487		
その他	-		
投資損失引当金	-9,846,962		
長期延滞債権	170,760,453		
長期貸付金	816,025,750		
基金	14,729,551,942		
減債基金	572,137,043		
その他	14,157,414,899		
その他	-		
徴収不能引当金	-11,261,231		
流動資産	9,836,641,014		
現金預金	2,823,245,949		
未収金	287,379,075		
短期貸付金	-		
基金	6,727,240,599		
財政調整基金	6,727,240,599		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-1,224,609		
資産合計	263,609,694,601	負債及び純資産合計	263,609,694,601

行政コスト計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：一般会計等

(単位：円)

科目名	金額
経常費用	49,654,747,996
業務費用	27,713,762,037
人件費	7,769,632,687
職員給与費	4,909,510,201
賞与等引当金繰入額	434,118,719
退職手当引当金繰入額	676,034,740
その他	1,749,969,027
物件費等	19,508,206,331
物件費	7,305,046,121
維持補修費	1,118,053,631
減価償却費	11,085,106,579
その他	-
その他の業務費用	435,923,019
支払利息	151,626,963
徴収不能引当金繰入額	12,485,840
その他	271,810,216
移転費用	21,940,985,959
補助金等	14,317,856,937
社会保障給付	4,531,135,469
他会計への繰出金	3,038,047,318
その他	53,946,235
経常収益	1,478,067,798
使用料及び手数料	628,446,751
その他	849,621,047
純経常行政コスト	48,176,680,198
臨時損失	336,437,481
災害復旧事業費	285,331,436
資産除売却損	50,956,045
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	150,000
臨時利益	134,649,843
資産売却益	134,649,843
その他	-
純行政コスト	48,378,467,836

純資産変動計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：一般会計等

(単位：円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	
前年度末純資産残高	228,738,558,946	266,939,696,310	-38,201,137,364	
純行政コスト(△)	-48,378,467,836		-48,378,467,836	
財源	42,458,862,633		42,458,862,633	
税収等	25,946,361,248		25,946,361,248	
国県等補助金	16,512,501,385		16,512,501,385	
本年度差額	-5,919,605,203		-5,919,605,203	
固定資産等の変動(内部変動)		-6,421,750,834	6,421,750,834	
有形固定資産等の増加		4,042,008,616	-4,042,008,616	
有形固定資産等の減少		-11,166,450,741	11,166,450,741	
貸付金・基金等の増加		3,789,324,833	-3,789,324,833	
貸付金・基金等の減少		-3,086,633,542	3,086,633,542	
資産評価差額	-5,654,921	-5,654,921		
無償所管換等	-11,996,369	-11,996,369		
その他	-	-	-	
本年度純資産変動額	-5,937,256,493	-6,439,402,124	502,145,631	
本年度末純資産残高	222,801,302,453	260,500,294,186	-37,698,991,733	

資金収支計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：一般会計等

(単位：円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	38,539,961,693
業務費用支出	16,598,975,734
人件費支出	7,753,268,052
物件費等支出	8,423,099,752
支払利息支出	151,626,963
その他の支出	270,980,967
移転費用支出	21,940,985,959
補助金等支出	14,317,856,937
社会保障給付支出	4,531,135,469
他会計への繰出支出	3,038,047,318
その他の支出	53,946,235
業務収入	42,639,809,272
税収等収入	25,819,649,688
国県等補助金収入	15,346,567,495
使用料及び手数料収入	633,405,058
その他の収入	840,187,031
臨時支出	285,331,436
災害復旧事業費支出	285,331,436
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	3,814,516,143
【投資活動収支】	
投資活動支出	7,602,557,327
公共施設等整備費支出	3,993,241,216
基金積立金支出	3,272,776,111
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	336,540,000
その他の支出	-
投資活動収入	4,222,882,640
国県等補助金収入	1,165,933,890
基金取崩収入	2,497,869,040
貸付金元金回収収入	394,041,750
資産売却収入	165,037,960
その他の収入	-
投資活動収支	-3,379,674,687
【財務活動収支】	
財務活動支出	3,654,763,280
地方債償還支出	3,606,275,684
その他の支出	48,487,596
財務活動収入	3,469,950,000
地方債発行収入	3,469,950,000
その他の収入	-
財務活動収支	-184,813,280
本年度資金収支額	250,028,176
前年度末資金残高	2,537,581,155
本年度末資金残高	2,787,609,331
前年度末歳計外現金残高	37,989,425
本年度歳計外現金増減額	-2,352,807
本年度末歳計外現金残高	35,636,618
本年度末現金預金残高	2,823,245,949

注記

1. 重要な会計方針

(1)有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

①有形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和59年度以前に取得したもの・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地においては備忘価額1円としています。

イ. 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②無形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

(2)有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

①満期保有目的有価証券・・・償却原価法（定額法）

②満期保有目的以外の有価証券

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・取得原価（又は償却原価法（定額法））

③出資金

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・出資金額

(3)棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当事項なし

(4)有形固定資産等の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 6年～50年

工作物 10年～80年

物品 2年～20年

②無形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

（ソフトウェアについては、法定耐用年数（5年）に基づく定額法によっています。）

③リース資産

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除く）

・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ. 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

・・・リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(5)引当金の計上基準及び算定方法

①投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体（会計）に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額

との差額を計上しています。

②徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不能欠損率（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

③退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

④損失補償等引当金

該当事項なし

⑤賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6)リース取引の処理方法

①ファイナンス・リース取引

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

②オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7)資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物(中津川市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。)なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8)その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

①物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額及び見積価格が50万円(美術品は300万円)以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

②資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額が60万円未満であるとき、又は固定資産の取得価額等のおおむね10%未満相当額以下であるときに修繕費として処理しています。

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項なし

3. 重要な後発事象

(1)主要な業務の改廃

該当事項なし。

(2)組織・機構の大幅な変更

該当事項なし。

(3)地方財政制度の大幅な改正

該当事項なし。

4. 偶発債務

(1)保証債務及び損失補償債務負担の状況

該当事項なし。

(2)係争中の訴訟等

該当事項なし。

5. 追加情報

(1)財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

①一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

②地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の係数をもって会計年度末の係数としています。

③地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、次のとおりです。

実質赤字比率	—
連結実質赤字比率	—
実質公債費比率	7.7%
将来負担比率	—

④利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額	4,079,572 円
⑤繰越事業に係る将来の支出予定額	3,445,645,000 円

(2)貸借対照表に係る事項

①売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア. 範囲

売却可能資産の範囲は、普通財産のうち売却が既に決定している、又は、近い将来売却が予定されていると判断される資産としています。

イ. 内訳

事業用資産	24,021,000円	(13,254,911円)
土地	24,021,000円	(13,254,911円)

令和3年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によっています。

上記の(13,254,911円)は貸借対照表における簿価を記載しています。

②減債基金に係る積立不足額 0 円

③基金借入金(繰替運用)

該当事項なし。

④地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額

34,268,918,823 円

⑤地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。

標準財政規模	24,353,893,000 円
元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額	4,371,328,000 円
将来負担額	59,626,218,000 円
充当可能基金額	15,374,355,000 円
特定財源見込額	4,631,310,000 円
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	40,623,427,000 円

⑥地方自治法第234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額

119,852,988 円

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

①固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

②余剰分(不足分)

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

①基礎的財政収支 1,361,375,490 円

②既存の決算情報との関連性

	収入(歳入)	支出(歳出)
歳入歳出決算書	52,870,223,067円	47,682,613,736円
地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額	0円	2,400,000,000円
繰入金に伴う差額	2,537,581,155円	0円
資金収支計算書	50,332,641,912円	50,082,613,736円

実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額については、支出として資金収支計算書上に計上しているため、相違します。

歳入歳出決算書では繰越金を収入として計上しますが、公会計では、計上しないため、その分だけ相違します。

③資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書

業務活動収支	3,814,516,143 円
投資活動収入の国県等補助金収入	1,165,933,890 円
未収債権額の増加（減少）	111,043,765 円
減価償却費	△11,085,106,579 円
賞与等引当金繰入額（増減額）	4,256,365 円
退職手当引当金繰入額（増減額）	△20,621,000 円
徴収不能引当金繰入額（増減額）	6,828,415 円
投資損失引当金繰入額（増減額）	0 円
資産除売却益（損）	83,693,798 円
その他臨時損失	△150,000 円
純資産変動計算書の本年度差額	△5,919,605,203 円

④一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれていません。

なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

一時借入金の限度額	1,000,000,000 円
一時借入金に係る利子額	- 円

⑤重要な非資金取引

重要な非資金取引以下のとおりです。

新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産および負債の額 48,767,400 円

連結貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

自治体名：中津川市

会計：全体会計

(単位：円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	331,704,886,647	固定負債	87,063,396,219
有形固定資産	312,811,595,008	地方債等	53,455,523,562
事業用資産	54,699,778,367	長期未払金	-
土地	16,356,611,503	退職手当引当金	8,093,806,279
立木竹	17,140	損失補償等引当金	-
建物	103,432,855,339	その他	25,514,066,378
建物減価償却累計額	-67,922,934,112	流動負債	8,706,050,953
工作物	9,275,334,168	1年内償還予定地方債等	6,457,590,596
工作物減価償却累計額	-6,755,875,985	未払金	1,276,892,283
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	3,593,790
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	748,939,211
航空機	-	預り金	162,600,965
航空機減価償却累計額	-	その他	56,434,108
その他	202,481,468	負債合計	95,769,447,172
その他減価償却累計額	-151,781,154	【純資産の部】	
建設仮勘定	263,070,000	固定資産等形成分	338,432,127,246
インフラ資産	251,910,671,344	余剰分(不足分)	-87,002,177,277
土地	7,191,245,837	他団体出資等分	-
建物	2,781,549,415		
建物減価償却累計額	-495,847,760		
工作物	500,054,131,560		
工作物減価償却累計額	-260,043,748,115		
その他	2,168,969,400		
その他減価償却累計額	-1,086,323,916		
建設仮勘定	1,340,694,923		
物品	16,189,263,260		
物品減価償却累計額	-9,988,117,963		
無形固定資産	141,691,913		
ソフトウェア	79,288,565		
その他	62,403,348		
投資その他の資産	18,751,599,726		
投資及び出資金	595,565,187		
有価証券	100,000,000		
出資金	495,565,187		
その他	-		
投資損失引当金	-9,846,962		
長期延滞債権	492,303,300		
長期貸付金	1,133,405,750		
基金	16,271,079,699		
減債基金	572,137,043		
その他	15,698,942,656		
その他	333,186,641		
徴収不能引当金	-64,093,889		
流動資産	15,494,510,494		
現金預金	6,168,791,946		
未収金	2,386,514,608		
短期貸付金	-		
基金	6,727,240,599		
財政調整基金	6,727,240,599		
減債基金	-		
棚卸資産	160,533,657		
その他	58,201,000		
徴収不能引当金	-6,771,316		
繰延資産	-	純資産合計	251,429,949,969
資産合計	347,199,397,141	負債及び純資産合計	347,199,397,141

連結行政コスト計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：全体会計

(単位：円)

科目名	金額
経常費用	75,532,719,988
業務費用	44,047,293,002
人件費	13,473,934,277
職員給与費	9,207,230,556
賞与等引当金繰入額	743,801,953
退職手当引当金繰入額	999,203,526
その他	2,523,698,242
物件費等	29,005,146,878
物件費	13,013,238,328
維持補修費	1,331,277,047
減価償却費	14,660,631,503
その他	-
その他の業務費用	1,568,211,847
支払利息	628,422,745
徴収不能引当金繰入額	69,961,372
その他	869,827,730
移転費用	31,485,426,986
補助金等	14,836,103,228
社会保障給付	16,580,346,023
その他	68,977,735
経常収益	12,686,220,572
使用料及び手数料	11,169,546,237
その他	1,516,674,335
純経常行政コスト	62,846,499,416
臨時損失	716,590,607
災害復旧事業費	285,331,436
資産除売却損	50,956,045
損失補償等引当金繰入額	-
その他	380,303,126
臨時利益	343,938,767
資産売却益	135,728,017
その他	208,210,750
純行政コスト	63,219,151,256

連結純資産変動計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：全体会計

(単位：円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	256,038,025,770	346,903,849,256	-90,865,823,486	-
純行政コスト(△)	-63,219,151,256		-63,219,151,256	-
財源	58,607,200,565		58,607,200,565	-
税金等	32,511,205,362		32,511,205,362	-
国県等補助金	26,095,995,203		26,095,995,203	-
本年度差額	-4,611,950,691		-4,611,950,691	-
固定資産等の変動(内部変動)		-8,475,596,900	8,475,596,900	
有形固定資産等の増加		5,580,748,958	-5,580,748,958	
有形固定資産等の減少		-14,782,351,448	14,782,351,448	
貸付金・基金等の増加		4,354,567,463	-4,354,567,463	
貸付金・基金等の減少		-3,628,561,873	3,628,561,873	
資産評価差額	-5,654,921	-5,654,921		
無償所管換等	9,529,811	9,529,811		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
本年度純資産変動額	-4,608,075,801	-8,471,722,010	3,863,646,209	-
本年度末純資産残高	251,429,949,969	338,432,127,246	-87,002,177,277	-

連結資金収支計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：全体会計

(単位：円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	60,516,993,277
業務費用支出	29,031,566,291
人件費支出	13,431,394,793
物件費等支出	14,186,226,826
支払利息支出	628,422,745
その他の支出	785,521,927
移転費用支出	31,485,426,986
補助金等支出	14,836,103,228
社会保障給付支出	16,580,346,023
その他の支出	68,977,735
業務収入	68,461,823,967
税収等収入	31,880,617,441
国県等補助金収入	24,264,036,120
使用料及び手数料収入	10,785,120,057
その他の収入	1,532,050,349
臨時支出	529,953,876
災害復旧事業費支出	285,331,436
その他の支出	244,622,440
臨時収入	158,100,000
業務活動収支	7,572,976,814
【投資活動収支】	
投資活動支出	9,328,150,568
公共施設等整備費支出	5,422,302,016
基金積立金支出	3,533,768,552
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	372,080,000
その他の支出	-
投資活動収入	4,864,510,270
国県等補助金収入	1,236,962,890
基金取崩収入	2,656,908,040
貸付金元金回収収入	398,781,750
資産売却収入	167,525,210
その他の収入	404,332,380
投資活動収支	-4,463,640,298
【財務活動収支】	
財務活動支出	6,524,947,891
地方債等償還支出	6,463,275,772
その他の支出	61,672,119
財務活動収入	3,988,250,000
地方債等発行収入	3,988,250,000
その他の収入	-
財務活動収支	-2,536,697,891
本年度資金収支額	572,638,625
前年度末資金残高	5,560,516,703
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	6,133,155,328
前年度末歳計外現金残高	37,989,425
本年度歳計外現金増減額	-2,352,807
本年度末歳計外現金残高	35,636,618
本年度末現金預金残高	6,168,791,946

注記

1. 重要な会計方針

(1)有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

①有形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和59年度以前に取得したもの・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地においては備忘価額1円としています。

イ. 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②無形固定資産・・・原則として取得原価

ただし、取得価額が不明なものは、再調達原価としています。

(2)有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

①満期保有目的有価証券・・・償却原価法（定額法）

②満期保有目的以外の有価証券

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・取得原価（又は償却原価法（定額法））

③出資金

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・出資金額

(3)棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当事項なし

(4)有形固定資産等の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	6年～50年
工作物	10年～80年
物品	2年～20年

②無形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

（ソフトウェアについては、法定耐用年数（5年）に基づく定額法によっています。）

③リース資産

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除く）

・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ. 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

・・・リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(5)引当金の計上基準及び算定方法

①投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体（会計）に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

②徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

③退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

④損失補償等引当金

該当事項なし

⑤賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6)リース取引の処理方法

①ファイナンス・リース取引

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

②オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7)資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（容易に換金可能であり、かつ、価値変動が僅少なもので、3か月以内に満期が到来する流動性の高い投資を言います。ただし、一般会計等においては、中津川市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等としています。）
なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。
ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。

(9)連結対象団体（会計）の決算日が一般会計等と異なる場合の処理

決算日と連結決算日の差異が3か月を超えない連結対象団体については、当該連結対象団体の決算を基礎として連結手続を行っていますが、決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。また、決算日と連結決算日との差異が3か月を超える連結対象団体（会計）については、仮決算を行っています。

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項なし

3. 重要な後発事象

(1)主要な業務の改廃

該当事項なし。

(2)組織・機構の大幅な変更

該当事項なし。

(3)地方財政制度の大幅な改正

該当事項なし。

(4)重大な災害等の発生

該当事項なし。

4. 偶発債務

(1)保証債務及び損失補償債務負担の状況

該当事項なし

(2)係争中の訴訟等

該当事項なし。

5. 追加情報

(1)連結対象団体（会計）

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
国民健康保険事業会計（直営診療施設設置）	地方公営企業会計	全部連結	—
国民健康保険事業会計（事業勘定）	地方公営企業会計	全部連結	—
駅前駐車場事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
介護保険事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
後期高齢者医療事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
下水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
病院事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—

地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

(2)出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の係数をもって会計年度末の係数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

(3)売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア. 範囲

売却可能資産の範囲は、普通財産のうち売却が既に決定している、又は、近い将来売却が予定されていると判断される資産としています。

イ. 内訳

事業用資産	24,021,000円	(13,254,911円)
土地	24,021,000円	(13,254,911円)

令和3年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によっています。

上記の(13,254,911円)は貸借対照表における簿価を記載しています。

連結貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

自治体名：中津川市

会計：連結会計

(単位：円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	332,708,729,509	固定負債	88,597,659,764
有形固定資産	312,912,262,133	地方債等	53,469,523,562
事業用資産	54,768,816,981	長期未払金	3,322,500
土地	16,356,611,503	退職手当引当金	8,536,633,478
立木竹	17,140	損失補償等引当金	-
建物	103,553,556,390	その他	26,588,180,224
建物減価償却累計額	-67,998,827,312	流動負債	8,851,849,964
工作物	9,286,296,204	1年内償還予定地方債等	6,478,590,596
工作物減価償却累計額	-6,764,623,654	未払金	1,345,232,540
船舶	-	未払費用	15,454,304
船舶減価償却累計額	-	前受金	3,898,590
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	782,089,378
航空機	-	預り金	169,418,148
航空機減価償却累計額	-	その他	57,166,408
その他	269,550,912	負債合計	97,449,509,728
その他減価償却累計額	-196,834,202	【純資産の部】	
建設仮勘定	263,070,000	固定資産等形成分	339,438,438,934
インフラ資産	251,910,671,344	余剰分(不足分)	-86,258,461,931
土地	7,191,245,837	他団体出資等分	24,808,766
建物	2,781,549,415		
建物減価償却累計額	-495,847,760		
工作物	500,054,131,560		
工作物減価償却累計額	-260,043,748,115		
その他	2,168,969,400		
その他減価償却累計額	-1,086,323,916		
建設仮勘定	1,340,694,923		
物品	16,405,702,603		
物品減価償却累計額	-10,172,928,795		
無形固定資産	143,986,496		
ソフトウェア	80,448,839		
その他	63,537,657		
投資その他の資産	19,652,480,880		
投資及び出資金	529,835,187		
有価証券	100,000,000		
出資金	424,835,187		
その他	5,000,000		
長期延滞債権	492,666,475		
長期貸付金	1,133,405,750		
基金	17,223,907,036		
減債基金	572,137,043		
その他	16,651,769,993		
その他	336,794,777		
徴収不能引当金	-64,128,345		
流動資産	17,945,565,988		
現金預金	7,313,004,953		
未収金	2,539,383,194		
短期貸付金	-		
基金	6,729,709,425		
財政調整基金	6,729,709,425		
減債基金	-		
棚卸資産	1,307,547,950		
その他	62,713,760		
徴収不能引当金	-6,793,294		
繰延資産	-	純資産合計	253,204,785,769
資産合計	350,654,295,497	負債及び純資産合計	350,654,295,497

連結行政コスト計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：連結会計

(単位：円)

科目名	金額
経常費用	84,709,025,772
業務費用	45,647,388,057
人件費	14,407,915,315
職員給与費	9,814,534,981
賞与等引当金繰入額	776,952,120
退職手当引当金繰入額	999,293,774
その他	2,817,134,440
物件費等	29,576,849,417
物件費	13,320,408,960
維持補修費	1,342,482,483
減価償却費	14,690,344,037
その他	223,613,937
その他の業務費用	1,662,623,325
支払利息	630,149,051
徴収不能引当金繰入額	70,044,012
その他	962,430,262
移転費用	39,061,637,715
補助金等	12,872,844,458
社会保障給付	26,114,440,209
その他	74,353,048
経常収益	13,989,446,903
使用料及び手数料	11,170,227,040
その他	2,819,219,863
純経常行政コスト	70,719,578,869
臨時損失	723,708,380
災害復旧事業費	285,331,436
資産除売却損	50,983,292
損失補償等引当金繰入額	-
その他	387,393,652
臨時利益	345,655,989
資産売却益	135,731,028
その他	209,924,961
純行政コスト	71,097,631,260

連結純資産変動計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：連結会計

(単位：円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	257,607,325,925	347,883,207,385	-90,300,953,193	25,071,733
純行政コスト(△)	-71,097,631,260		-71,097,368,293	-262,967
財源	66,856,372,852		66,856,372,852	-
税収等	36,423,309,280		36,423,309,280	-
国県等補助金	30,433,063,572		30,433,063,572	-
本年度差額	-4,241,258,408		-4,240,995,441	-262,967
固定資産等の変動(内部変動)		-8,442,052,374	8,442,052,374	
有形固定資産等の増加		5,598,698,468	-5,598,698,468	
有形固定資産等の減少		-14,811,325,462	14,811,325,462	
貸付金・基金等の増加		4,440,664,425	-4,440,664,425	
貸付金・基金等の減少		-3,670,089,805	3,670,089,805	
資産評価差額	-5,654,921	-5,654,921		
無償所管換等	2,367,412	2,367,412		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-1,457,074	81,065	-1,538,139	-
その他	-156,537,165	490,367	-157,027,532	
本年度純資産変動額	-4,402,540,156	-8,444,768,451	4,042,491,262	-262,967
本年度末純資産残高	253,204,785,769	339,438,438,934	-86,258,461,931	24,808,766

連結資金収支計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

自治体名：中津川市

会計：連結会計

(単位：円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	69,846,348,910
業務費用支出	30,783,692,695
人件費支出	14,350,105,230
物件費等支出	14,917,681,814
支払利息支出	630,149,051
その他の支出	885,756,600
移転費用支出	39,062,656,215
補助金等支出	12,872,844,458
社会保障給付支出	26,114,440,209
その他の支出	75,371,548
業務収入	77,993,697,363
税収等収入	35,792,612,790
国県等補助金収入	28,599,310,957
使用料及び手数料収入	10,785,800,860
その他の収入	2,815,972,756
臨時支出	536,756,402
災害復旧事業費支出	285,331,436
その他の支出	251,424,966
臨時収入	158,104,402
業務活動収支	7,768,696,453
【投資活動収支】	
投資活動支出	9,428,698,528
公共施設等整備費支出	5,437,056,456
基金積立金支出	3,619,324,124
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	372,080,000
その他の支出	237,948
投資活動収入	4,908,977,710
国県等補助金収入	1,242,359,960
基金取崩収入	2,695,878,198
貸付金元金回収収入	398,781,750
資産売却収入	167,616,482
その他の収入	404,341,320
投資活動収支	-4,519,720,818
【財務活動収支】	
財務活動支出	8,799,261,490
地方債等償還支出	8,414,005,311
その他の支出	385,256,179
財務活動収入	6,159,049,246
地方債等発行収入	6,157,354,437
その他の収入	1,694,809
財務活動収支	-2,640,212,244
本年度資金収支額	608,763,391
前年度末資金残高	6,670,131,293
比例連結割合変更に伴う差額	-1,531,670
本年度末資金残高	7,277,363,014
前年度末歳計外現金残高	37,993,925
本年度歳計外現金増減額	-2,351,986
本年度末歳計外現金残高	35,641,939
本年度末現金預金残高	7,313,004,953

注記

1. 重要な会計方針

(1)有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

①有形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和59年度以前に取得したもの・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地においては備忘価額1円としています。

イ. 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②無形固定資産・・・原則として取得原価

ただし、取得価額が不明なものは、再調達原価としています。

(2)有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

①満期保有目的有価証券・・・償却原価法（定額法）

②満期保有目的以外の有価証券

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・取得原価（又は償却原価法（定額法））

③出資金

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・出資金額

(3)棚卸資産の評価基準及び評価方法

①原材料、商品等・・・先入先出法による原価法

②販売用土地・・・個別法による原価法

(4)有形固定資産等の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	6年～50年
工作物	10年～80年
物品	2年～20年

ただし、一部の連結対象団体については定率法によっています。

②無形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

（ソフトウェアについては、法定耐用年数（5年）に基づく定額法によっています。）

③リース資産

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除く）
・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ. 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

・・・リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(5)引当金の計上基準及び算定方法

①徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

②退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

ただし、一部の連結対象団体においては、主として期末における退職給付債務及び年金資産の見込み額に基づき計上しています。

③損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

④賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6)リース取引の処理方法

①ファイナンス・リース取引

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

②オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7)資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（容易に換金可能であり、かつ、価値変動が僅少なもので、3か月以内に満期が到来する流動性の高い投資を言います。ただし、一般会計等においては、中津川市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等としています。）
 なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。
 ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。

(9)連結対象団体（会計）の決算日が一般会計等と異なる場合の処理

決算日と連結決算日の差異が3か月を超えない連結対象団体については、当該連結対象団体の決算を基礎として連結手続を行っていますが、決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。また、決算日と連結決算日との差異が3か月を超える連結対象団体（会計）については、仮決算を行っています。

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項なし

3. 重要な後発事象

(1)主要な業務の改廃

該当事項なし

(2)組織・機構の大幅な変更

該当事項なし

(3)地方財政制度の大幅な改正

該当事項なし

(4)重大な災害等の発生

該当事項なし

4. 偶発債務

(1)保証債務及び損失補償債務負担の状況

該当事項なし

(2)係争中の訴訟等

該当事項なし

5. 追加情報

(1)連結対象団体（会計）

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
国民健康保険事業会計（直営診療施設）	地方公営企業会計	全部連結	—
国民健康保険事業会計（事業勘定）	地方公営企業会計	全部連結	—
駅前駐車場事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
介護保険事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
後期高齢者医療事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
下水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
病院事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
中津川市土地開発公社	地方三公社	全部連結	—
岐阜県市町村会館組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	3.96%
岐阜県後期高齢者医療広域連合	一部事務組合・広域連合	比例連結	3.99%
一般財団法人穂の湖ふれあい村	第三セクター等	全部連結	—
一般財団法人付知町振興公社	第三セクター等	全部連結	—
株式会社阿木レイクサイド	第三セクター等	全部連結	—
山口特産開発株式会社	第三セクター等	全部連結	—
社会福祉法人中津川市社会福祉協議会	第三セクター等	全部連結	—

連結の方法は次のとおりです。

- ①地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。
- ②一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。
- ③地方三公社は、すべて全部連結の対象としています。
- ④第三セクター等は、出資割合等が50%を超える団体（出資割合等が50%以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体を含みます。）は、全部連結の対象としています。また、いずれの地方公共団体にとっても全部連結の対象とならない第三セクター等については、出資割合等や活動実績等に応じて、比例連結の対象としています。ただし、出資割合が25%未満であって、損失補償を付している等の重要性がない場合は、比例連結の対象としていない場合があります。

(2)出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の係数をもって会計年度末の係数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

(3)売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア. 範囲

売却可能資産の範囲は、普通財産のうち売却が既に決定している、又は、近い将来売却が予定されていると判断される資産としています。

イ. 内訳

事業用資産	24,021,000円	(13,254,911円)
土地	24,021,000円	(13,254,911円)

令和3年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によっています。

上記の（13,254,911円）は貸借対照表における簿価を記載しています。